鳥取県青少年育成アドバイザー協議会通信 No.86

since 1994

鳥取県青少年育成アドバイザー通信 86 号
発行　鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
発行日　令和 3 年 2 月 14 日

コロナ禍の昨年末、青少年育成鳥取県民会議の主催で、下記の研修会が開催されました。風通しが良すぎ広すぎるくらいの研修室で寒々としていましたが、何と、講師の歌とジョークで講演が始まり、研修室は一気に温まりました。
講師は、アドバイザー協議会事務局長 新川 氏です。
その内容を掲載します。

令和2年度
青少年育成推進指導員・青少年育成アドバイザー研修会

講　演　：　コロナ禍の青少年育成！あなたは…？
～青少年育成のこれまでとこれから～
講　師　：　鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
事務局長　新川　祐二　氏

新型コロナ　～災い転じて福となす青少年育成を～

令和 2 年 12 月 9 日に、県民会議主催の「青少年推育成アドバイザー・推進指導員研修会」で話す場を頂きました。最近、人前でまとまって話すことが少なく大変緊張した時間でした。

それも、日ごろ、各市町村で青少年育成に携わっておられる、アドバイザー・推進指導員さんや担当者の皆さんに、時々脱線するような話を熱心に聞いていただき、感謝しています。

さて、今回のテーマは、「コロナ禍の青少年育成について」とし、今年の各地域での取り組みを踏まえ、私なりの想いを話し、問題提起をさせていただきました。

問題提起の概要は、次の通りです。

1、青少年育成の今までとこれから

～青少年育成国民会議・県民会議の歴史的な流れから、推進指導員設置とアドバイザーの養成並びに全日本アドバイザー連合会の取り組みについて。
・私の経験した昭和の終わりから平成の初めに取り組まれた青少年育成と今の青少年育成の取り組みについて思うこと。少子化の中での青少年育成、難しさがある反面、また面白さも・・。

2、子どもの育ちの中で大切なこと

～子どもの発達課題と「汐見先生の素敵な子育て」から大切なこと（①身体力の基本は「遊び」②学力の基本は、「好奇心」③コミュニケーション力の基本は「共感」）

3、コロナ禍の青少年育成について

～大事だと思う事→①縦割りでなく他機関との連携も、②地域と学校のウインウインの関係作り、③届きにくい分野への挑戦、④今あるものの充実など
そして、「コロナ禍の青少年育成」について、「コロナ対策をしつつ」「子どもの今は、今しかない」

4、まとめ

「①子どもを見るのに、フラットに見る事。指導員として楽しみながら、地道に広げていくこと」「②子ども達の心に温かい原風景を残してあげる事」「③つきをよぶ魔法の言葉（ありがとう！感謝します！ついています！）」
～アドバイザー協議会では「ありがとう 100 回運動」に取り組んでいます。

その後の話し合いの中では、参加者の皆さんから、具体的な悩みや取り組みの工夫が発表されました。具体的に実践された取り組みは、とても参考になりました。

ある意見の中で、「コロナのおかげで、今まで何気なく続けていた取り組みについて、見直すきっかけになった。」とありました。

私たちに、振り返りと今の子ども達に何が必要か、問いかけをしてくれているのが、「新型コロナ」かもしれません。「災い転じて福となす」決して。コロナは、排除の対象ではなく、私達に与えられた試練・教訓なのかもしれません。正しく知って、今の子どもに大切なことをよりよく取り組みたいものです。

講演者も
聞く人も
距離を取って
広々と…

「 かけがえのないもの 」

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
副会長　井上　廉女

この度、篤志面接委員としても活躍されてきた万木副会長さんから、思わぬ形で私が副会長の残任期間を受け継ぐことになりました。新年度ふさわしい方にバトンタッチするまでどうぞよろしくお願いいたします。

全日本アド連からのアンケート調査用紙も届き、自らの活動を見直しながら回答し返信しました。会の方向性について全国の分析結果を待ちたいと思います。

昨年末には、鳥取県青少年育成指導員・アドバイザー合同研修会において、我らが新川先生により「コロナ禍の青少年育成!!　あなたは・・？」と題して講演が行われました。これまで青少年団体活動が盛んだった時代に社会教育に携わってこられたことや、これからの子どもたちには好奇心、体験、自尊感情、コミュニケーション力がますます大切になる。「子どもの今は、今しかない」コロナ対策をしつつ「恐れながら、怖がるな！」というお話が特に印象的でした。

その後、参加者によるコロナ禍での活動について情報交換が行われました。皆さんそれぞれ工夫や模索しながら柔軟に活動されている様子の紹介があり、とても参考になりました。

さて、皆さんにとってかけがえのない、何にもかえがたいものとは何でしょう。

私ごとですが、新年を迎えたばかりの先日、実家の母が亡くなりました。あと一月で 93 歳になるところでした。パッチワークに励みながら毎日元気に過ごしていたのに、あまりにも急でした。時節柄、香港、東京、横浜、大阪に暮らす孫やひ孫たちは帰ってくることができません。残念ながらリモートでのお別れとなりました。本当にかわいがってくれて、いつも皆の真ん中に母がいました。心にぽっかりと穴が空いてしまったようです。

母は、若い頃から奉仕の精神を持って日々地域活動し、晩年は家族にいっぱい愛を注いできた人生でした。それを私も少しでも受け継いでこれから生きていきたいと思っています。

令和2年度　青少年育成鳥取県民会議

育成環境部会会議報告

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
芳村恵子

期日：令和 3 年 2 月 10 日

場所：倉吉体育文化会館

協議事項：今年度活動報告と来年度活動方針の検討

育成環境部会として「ペアレンタルコントロール啓発事業」や「高校生挨拶運動」があります。今年度はコロナ禍による中止や縮小が相次ぎ、SNS トラブル防止啓発活動も会場に予定していたお祭りが中止となりました。

そこで標語『とりのからあげ』を広めるために作成したポケットティッシュを、東・中・西部の家電量販店へ配布し協力を要請しました。それには QR コードも付いていて動画も見られるようになっています。また「家庭の日」絵画・ポスター巡回展示に併せて標語の優秀賞の啓発パネルの展示も行われました。

しかし、折角子ども達が標語を考え、動画作成にも協力して貰いながら、ただ渡すだけでは啓発になりにくいのでは、また親子で関心を持って話し合う手立てにして欲しいということで、来年度は学校や地域での SNS に関する学習会の際に配布してはということになりました。

また挨拶運動はコロナが収まっても、年 2 回一度に多くの人が駅に立つという以前のやり方を見直す必要があるとなりました。

来年度も「乳幼児期からの親子の食事と会話が　子どもを成長させていく」の県民運動のスローガンのもと活動が計画されます。そのためにも、青少年を取り巻く家族や地域の大人に向けて、我々の声が届く活動が必要だということになりました。

ところで、どの部会も活動にはある程度の資金が必要になります。県民会議事務局から、「会員を募集し財源を増やすことも課題である」ことが話されました。ここで、「会員」になるということはどういうことか、「寄付」ということで資金を集められないかという意見が出ました。事務局より、「企業等に大口をお願いしても、県民会議は任意団体のため、控除の対象にならない寄付となる。また一口 1000 円では、振込料や資料費などで、活動費に当てる資金が残りにくい。」などの理由で、見直す時期とのことでした。

来年度は、コロナ禍であっても実践できる方法を考えて取り組みたいものです。

「子どもたちの笑顔を追い求めてやってきたこと」

鳥取県青少年育成アドバイザー協議会
副会長　西上　洋治

あなたはアドバイザーをしていてどんな幸せを感じていますか。

世の中は今、コロナ禍でいろいろな課題が目に見えるようになってきています。青少年の健全育成を願いながら日々の活動を私はやってきていましたが、子どもたちへの体験の場だけではなく、子どもを取りまく社会環境を工夫しながら改善していかなければならないことに気づきました。急がば回れです。高齢者の問題解決なくして青少年の健全育成はできないのです。アドバイザー会員の活動は視点を見失わなければ子どもたちの笑顔につながるのです。子どもたちの課題は周りの社会状況が原因になっているのです。生きづらさを感じながら生活しているのは子ども本人だけのせいではないと思うのです。周りの大人がお互いに手を取り合う姿を子どもたちに見せる機会を失っているのです。伝統行事ができなくなってきたのもその例です。孤独な生活を送る大人の姿が子どもに不安を与えているのです。

アドバイザーが取り組んでいる活動は、子どもたちの笑顔につながっているという視点を見失わなければ、子どもたちの幸せにつながるのです。おばあちゃんたちが子どもと笑顔で話ができる機会をつくることも子どもにとっては貴重な体験になるのです。

ある人から「アドバイザーをやっていて何の得があるの？」とたずねられたことがありました。私は「得はないけど徳をいっぱい感じることができて幸せをもらっているよ。」と答えました。人生の生きがいを感じながらやっています。

また、青少年推進指導員や子ども会活動指導者とアドバイザーと何が違うの？と聞かれました。わたしは大きく2点あると思います。①アドバイザーは死ぬまで現役で活動できること、推進指導員と子ども会指導者は任期があり選ばれなければ止めなければなりません。②推進指導員と子ども会指導者は年間計画に位置づけられた行事を受け持ち、限られた地域の子ども達を対象にしているのに対し、アドバイザーは目の前の子ども達の姿から将来社会人として必要の資質を考え、各種活動や体験を提供できる人材の育成をめざして活動しているのです。子ども達だけでなく周りの大人にも働きかけていくことが求められているのではないでしょうか。

一人ひとりのアドバイザーの活動は、今の社会状況の課題解決を願いながら取り組んでいるのです。子どもたちの笑顔につなげるにはどんな工夫を、どんな活動をすればいいのかお互いに知恵を出し合い交換しながらやっていきたいと願っています。

こんな作品に出合いました

ボールペン画家
青己はなね展の絵と詩

青いボールペンだけで描かれた繊細な絵と、
いっしょに添えられていた詩をご紹介します。
立ち止まって佇んでいたあの頃、出会いたかった…

はなねさんは、皆生在住の方です。

いこう

わたしはだいじょうぶ

もっていくものは
光と呼吸と言葉

つたえたいものはもう
　　決まっている

さあ　いこう

超えろ
飛び出せ

行くんだ
きみがきみの世界を
変えるんだ
きみが感じたその心を
信じて

いけ